



◇活動の近況報告 中島由美子(地域 P&C 第 12 期生) ……………1 頁
 ◇賃貸マンション「ドルチェ今井」はまちづくりと連動して動いています
 若林稔 (地域 P&C 第 5 期生/地域 P&C 養成塾塾長) ……………2 頁
 ◇和太鼓で恩返しの旅は続く—川上杉桶太鼓と共に— 吉村勝雅(地域 P&C 第 17 期生) ……………2 頁

活動の近況報告

中島由美子(地域 P&C 第 12 期生)

地域づくり P&C 養成講座でお世話になった方々、先輩方の地域づくりの現場で出会った方々との交流が今も続いていることに感謝をこめて、近況を報告いたします。

日ごろの就業先は奈良市福祉部に所属し、傍らで職能団体の(公社)奈良県栄養士会の役員として奈良県下の各地域での県民への食生活改善・健康増進、健康寿命延伸への環境づくりや直接的な指導等を行い、また、(NPO)奈良の食文化研究会でも役員として伝承が今にも途絶えそうな奈良県下の食文化を継承し、伝承へのイベント開催や保存会との交流など多くの知識人の方々から刺激を受け学んでいます。一方で成年後見人や福祉施設外部評価委員としての活動も継続しています。そんな私の地域づくりの拠点は、北葛城郡河合町です。

そもそも「自転車安全利用推進のまち河合町」として、西大和ニュータウン内校区であった旧第三小学校で自転車安全教室や小学生自転車操縦全国大会出場での歴代好成績など自転車とは縁のある地域です。自転車活用推進法が施行されることを見越して始めたポタリングによるまちづくりの草の根活動も 7 年目は、「自然に健康になれる環境づくり」「栄養・運動・交流でフレイル予防」「スポーツ栄養・パフォーマンスマネジメント」を 3 本柱にした活動に他町からの関心をいただき、ポタリングコースづくりやイベント計画の相談をいただくまでに成長しました。近鉄田原本線のサイクルトレインは順調に継続でき、また沿線各地のシェアサイクル設置が進み、各町のヘルスプロモーション事業や起業の健康経営などに一助を果たすことができました。

食生活習慣の改善と適切な運動の啓発啓蒙活動としてポタリングイベントとスポーツ栄養講座を同時開催してきたことも功を奏してか、河合町が奈良県下の男性健康長寿第一位を継続しています。また、昨年8月25日にはまほろばホールで「食×防災」～ブリコラージュ 非常時も常時とおなじ～イベントを河合町と共催し 100 名余りの来館動員が叶いました。「NHK ゆうどき」で広報していただくことも叶いました。

「食でつながるネットワークづくり」をさらに前進させる計画を立てている時に、まほろばホール敷地内の喫茶「つどい」の事業継承のご依頼が地域づくり支援機構の先輩(高岡氏)からあり、いろんなことが次々のご依頼あり、ポタリングでのまちづくりも新しいステージに進むこととなりました。

ロボットカフェなどを手がけておられる吉藤オリイ氏ともご縁があり、「つどい」にも新しいスタッフ(オリヒメ・遠隔操作ロボット)が訪れてくれることを期待しています。

今後は、かねてから計画してきた「地域通貨」や「栄養・食事アプリ」などを実現し、より多くの住民が健康意識を高め健康寿命延伸し、「自然に健康になれる環境づくり・メディカルストレート」の構想も実現していきたいです。

健康寿命奈良県 1 位の実現と非常時も日常とかわらない河合町を目指して、これからも楽しみながら関係人口を増やしていこうと思います。引き続き、ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

賃貸マンション「ドルチェ今井」はまちづくりと連動して動いています

若林稔（地域P&C 第5期生／地域P&C 養成塾塾長）

30年前、近郊都市の農地を住宅促進地区として、①農地に宅地並み課税を課す、②農地として活用を続けるのであれば売買を30年間禁止し、やむなく手放す時は行政がその活用に関与する、といった制約がかけられたため、農地を転用してマンション経営を行うこととした。建設資金4億円は、住宅金融金庫から借り、建設が始まった。

こんな感じで始まったマンション経営は、苦難の連続であったが、苦難の時こそ、知恵が湧き、体が動き、節約を知り、借金の返済も滞りなく過ごせてきている。

並行して進めてきた今井町の町並み保存活動は、これも行政先行の、補助金目当ての活動を変えるため、住民が自ら活動する癖を体に沁み込ませる基礎体力づくりに率先して汗を流してきた。

マンション経営、今井町町並み保存会活動の双方がリンクし始めたのは20年が過ぎた頃からだった。

マンションは、節約の10年を過ぎた頃から、1回に1千万円をかけて外観のリニューアル工事を2度行った。もちろん、居室は空室が出るごとにリニューアルを繰り返してきた。

今井町の町並み保存も、住民による知名度を上げるためのイベントを多数創設してきたが、子どもたちへの町並みの貴重さと、子どもらしいマナーの大切さを、小学6年生に集中して教育関与してきた。いま、今井町は、子どもを育てやすい町として評価されるようになっている。小学校は、3教室が増設され、児童数はここ10年間で61%もの増加となっている。

当然ながら、私のマンションも、子どもがいる家庭が増え、満室状態の人気マンションになってきている。住みよい校区に住みよい住宅が揃えば、住む人は増える。

次は、商都今井町の復活に向けての町づくりを進めるとともに、我がマンションを、古いマンションではなく、クラシックマンションとしての品格を持ち続けるよう維持し、車の両輪にして活動を続け、次の世代につなげる準備に入る所存である。

数の観光は要りません！ 質の良い外来者は大歓迎です！

和太鼓で恩返しの旅は続くー川上杉桶太鼓と共にー

吉村勝雅(地域P&C 第17期生)

昨年6月の地域P&C 養成塾の終盤から、私の周辺で人との縁が広がり始めた。

養成塾がきっかけで、今井町衆市での活動の場をいただいたのがご縁になって、破れていた1.7尺宮太鼓を補修する元気ももらった。そして、吉野町での製材業現地研修をきっかけに、教員時代に教材づくりなどで何度もお世話になっていた川上村産の杉桶太鼓を購入する決断もした。

川上村とのご縁はさらに続き、丹生川上神社上社太鼓保存会「靄」(おかみ)別名「吉野杉桶太鼓を繋ぐ会」でも練習の機会をいただき、川上村の神社や寺院、周辺イベントなどで活動するようになった。

退職して「和太鼓で恩返しの旅に出る(和太鼓井筒童で)」と思い立ってもう7年。年数回今井町などのお祭りや保・幼・少で演奏を続けていたが、コロナ禍でメンバーが0になった時期もあったのに、今新たに3曲も覚える日々が訪れるとは…。必死になって曲を覚え、体力づくりも始めた。30年前に和太鼓を打ち始めた時のように。

また、「井筒童」は、これも養成塾つながりで、河合町高塚台の夏祭りで演奏できた。私が生まれ育った高取町「国分神社」でも新嘗祭で奉納演奏ができた。

今井小学校ー書道ー養成塾のつながりで、わずか数年の間に自分が積極的に動けばいっぱいチャンスができてくるということを実感した。

これからも活力を持ち続け、活気を持って生きる喜びを広げたいと願っている。